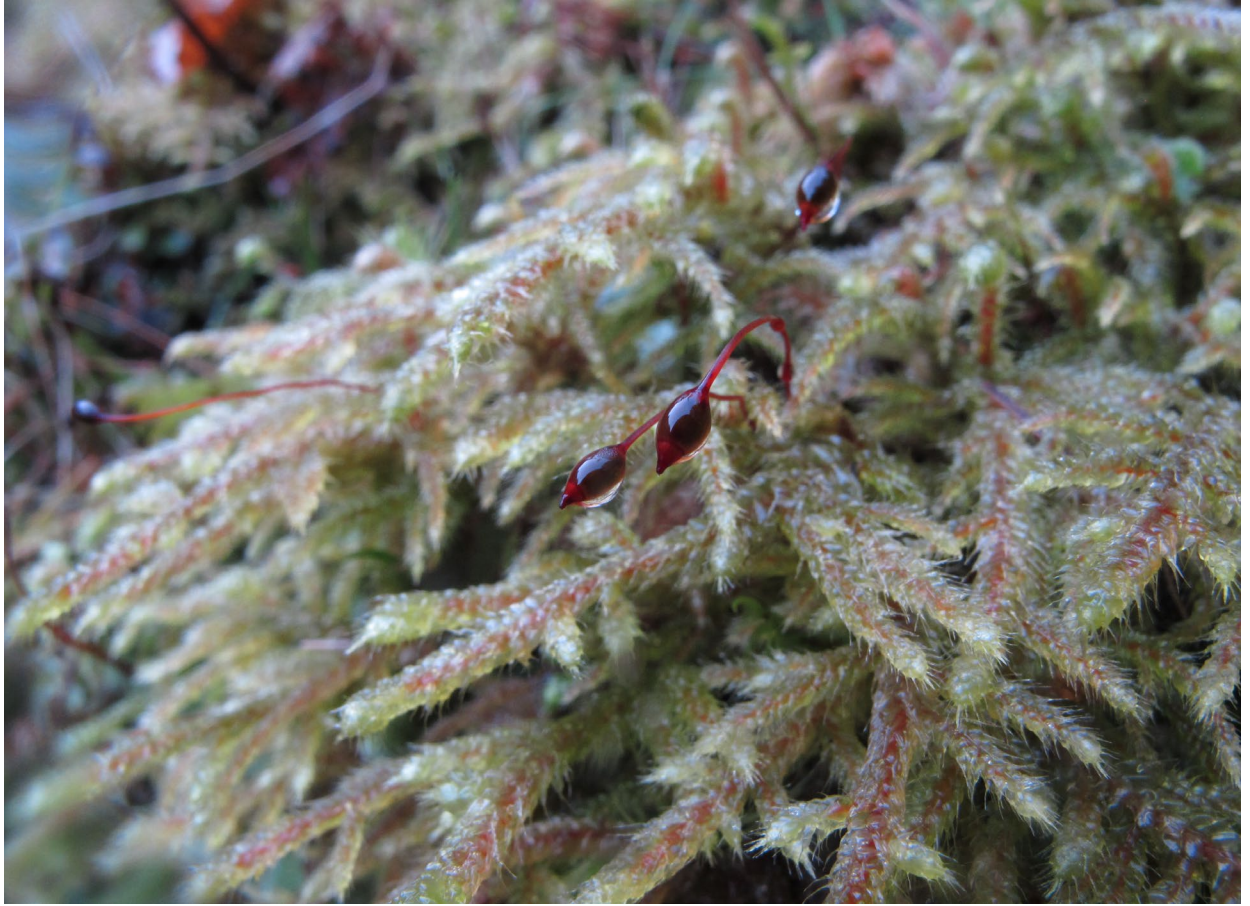


緑化だより

No.201 令和6年1・2月合併号



フトリュウビゴケ

- 季節の花(クワイ(ゑぐ))
- 水生昆虫の話
(キタガミトビケラ科)
- 小さな世界こけ(フトリュウビゴケ)
- 研修会のご案内
- お知らせ・ご案内
- 展示会

うらま 遊学の森

広島県緑化センター



〒732-0036 広島市東区福田町 10166-2



広島県
緑化センター
二次元コード

TEL 082-899-2811 FAX 082-899-2843 URL <https://ryokka-c.jp>

季節の花

クワイ(ゑぐ)

「君がため 山田の沢に ゑぐ摘(つ)むと 雪消(ゆきげ)の水に
裳(も)の裾(すそ)濡(ぬ)れぬ」
作者不詳 万葉集 卷10-1839

これを訳しますと

(大好きなあなたに食べてもらおうと、山田の沢に出かけて、ゑぐ(くわい)を摘(つ)みとろうと
していたら、冷たい雪解けの水に着物の裾が濡れてしまったのですよ)

奈良時代にはクワイのことを、ゑぐ(恵具)とよみました。

「ゑぐ」はセリ、オモダカ、クログワイの説がありますが、特にオモダカとクログワイは沼や川辺などに
自生しており、昔から根茎を食用にしていました。

クワイはオモダカ(オモダカ科オモダカ属)の変種です。

昔から、日本全国の川や湧き水の栄養分のある中で、自生して
いたオモダカを栽培したものがクワイです。

オモダカはアジア、ヨーロッパ、アメリカなど温帯、熱帯に広く分
布していますが、野菜として栽培されているのは中国と日本だけ
で、欧米ではオモダカの花は観賞用です。

別名は「田草」「燕尾草」と言われています。

クワイは水生の多年生で、草丈は1mぐらいで葉は矢じり型、
雌雄異花で、9月頃白い3枚の花弁の花が咲きます。

芋は太い匍匐する地下茎の先端が球形になったもので、1株当たり10~15個ぐらいできます。

江戸時代中期「天明の飢饉」には救荒作物であったともいわれています。

1701年(元禄14年)の「大和本草」で貝原益軒に紹介されているものに、なにわ(現在の大阪府
内)の伝統野菜の一つ、「吹田クワイ」があります。このクワイは江戸時代から明治維新まで天皇
をはじめ御所への献上が200年も続いたと言われています。

吹田クワイは、中国原産のクワイとは違いオモダカの地下茎がふくれたもので、クワイより小型で
す。この吹田クワイ(吹田慈姑)は植物学者の牧野富太郎博士によって「**唯一の日本原産のクワイ**
である」とされ、スイテンシス **forma suitensis (吹田) Makino** と新しい学名が発表されました。

現在日本に出回っているクワイは、中国原産の芋の皮が青い「青クワイ」と言われるものです。
生産地は埼玉県と広島県の2県で、特に広島県の福山市は栽培が盛んで日本一の生産量です。

お正月のおせち料理に欠かせないクワイの芋は、鳥のくちばしのような長い芽が出ており、その
姿が「お芽(目)出たい野菜」、また根茎にたくさんの芋を付けていることから「子孫繁栄」など縁起の
いい食材として重宝されています。アク抜きして、ふくめ煮にすると、ゆり根に似た味でほくほくした
触感があり、でんぷん質の多い野菜です。(上村)



アオクワイ

水生昆虫の話

キタガミトビケラ科

年々川の中の生き物たちの顔ぶれや生息数は、あまりよろしくない方向に変化しています。

日本は、2050年ビジョン『自然と共生する社会』を目指しており、「生物多様性国家戦略2023-2030」において、生物多様性の損失と気候変動の「2つの危機」に対応して自然再興(ネイチャーポジティブ)に向けた社会の根本的な変革を目指し、健全な生態系を確保し、自然の恵みを維持回復するために「30by30 目標=陸と海それぞれ30%以上の自然環境を保全する」の達成に

向けての取り組みを推進している真っ最中なのですが、ここ広島県緑化センターの溪流は、健全な生態系が確保されている保全しなければならない大切な場所でもあります。

さて、今回は世界的に分布が限られており、ヒマラヤから日本にかけての東アジアだけに生息する世界的にも珍しいトビケラで、日本では一族一種のみである「キタガミトビケラ(トビケラ目 キタガミトビケラ科 キタガミトビケラ属)」についてご紹介します。

キタガミトビケラの幼虫は、体長約 15 mm でほぼ一年中観察することができます。河川の上流域の産地溪流でも水のきれいな流れのはやい早瀬のような川の中で、陸のミノムシのように枯葉などの破片でケース(巣)を作って生息しているトビケラの仲間なのですが、他のトビケラ目と大きく違うのが、ケースに長く伸びている写真のような柄があること。この長い支持柄の末端を大きめの石にくっつけて、ケースが流されないように固定し、ゆらゆら揺れるケースから頭を出し、後縁に刺毛のある長い足を広げて、流れてきた小さな水生昆虫などをキャッチして食べています。

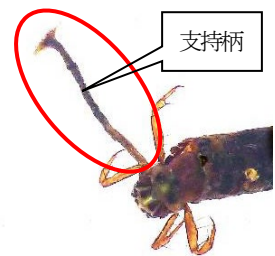
他にこんな生き方をしているトビケラの幼虫はいないので、少し大きめの石に長い柄でくっついてゆらゆらしている黒っぽいものがないかどうか注意して探すと見つけることができます。

ちなみに、この長い支持柄はしっかり石にくっついていますが、自分の身に危険を感じたり、水位がケースの位置より下がってくると、自らかみ切ってしまうこともあるそうです。

成虫は1年に1度、春から夏にかけて出現します。ほかのトビケラの仲間と同じような形状で、体長は 10 mm 前後の黒褐色。その生態について、詳しいことはまだわかっていないようです。ご興味のある方は、研究なさってみてはいかがでしょうか？(西村)



キタガミトビケラ科



小さな世界 こけ

フリュウビゴケ

今年の干支は辰。辰は水を司る神として、古代より日照が続くと、土で作った土龍を用いて雨ごいをするなど崇められてきました。

その辰にちなんだコケにイワダレゴケ科のフリュウビゴケ(太龍尾苔)があります。

フリュウビゴケは、雌雄異株。山地の湿り気のある斜面や岩にフカフカした群落をつくる大型のコケです。

茎は茶褐色で、毛葉に包まれています。茎の途中からは毎年新しい茎が羽状に分岐します。

葉は、短い中肋が二本あり、広い卵形で、茎を包み込むようにつき、葉の先は長く毛のように伸びています。孢子体は 11 月頃からつけ始め、蒴柄は茶褐色で 2 cm 前後、蒴は茶褐色で約 2 mm の楕円形のもの傾いてつきます(表紙写真参照)。(山根)



フリュウビゴケ



フリュウビゴケの葉

研修会のご案内

- 1月27日(土) 『なめこ植菌教室』
栽培についての講義のあと、植菌実習
※要予約(残りわずか)、材料費700円
10:00～12:00 学習室 集合
講師：日本きのこセンター
三次支所長 影井 和男
- 2月21日(水) 『ジャンボ椎茸植菌教室No.1』
栽培についての講義のあと、植菌実習
※要予約(先着20組)、材料費800円(1/4～予約開始)
第1回、第2回の両方に参加することはできません
10:00～12:00 学習室 集合
講師：日本きのこセンター
三次支所長 影井 和男
- 2月24日(土) 『ジャンボ椎茸植菌教室No.2』
栽培についての講義のあと、植菌実習
※要予約(先着20組)、材料費800円(1/4～予約開始)
第1回、第2回の両方に参加することはできません
10:00～12:00 学習室 集合
講師：日本きのこセンター
三次支所長 影井 和男
- 3月2日(土) 『早春のバードウォッチング』
散策しながら野鳥を観察します
※自由参加、無料、双眼鏡持参、雨天中止
10:00～12:00 学習展示館前 集合
講師：日本鳥類保護連盟
三次地方分会事務局長
衛藤 慎也
- 3月3日(日) 『針葉樹の見分け方』
室内で実物の葉っぱを見て、特徴や見分け方を学ぶ
※自由参加・無料、ルーペ持参
10:00～12:00 学習室 集合
講師：森林植物研究家
埴田 宏

☆お知らせ・ご案内 ☆

※1月の休園日は1月3日(水)までです。
(レストハウスは月、木 休業)

・合格祈願「やまこぼし」のお守り
管理事務所にて1人1枚、無料



合格祈願「やまこぼし」のお守り

◎ 展示会

場所:レストハウス
(ガラスケース展示)

モーモーアート クレイ作品展

～ 2月4日(日)

(ボード展示)

第7回ひろしま遊学の森

「四季の移ろい」写真コンテスト 作品展

1月4日(木)～1月25日(木)

令和5年度広島県緑化ポスター

原画コンクール入賞作品展

2月1日(木)～2月29日(木)



第7回「四季の移ろい」写真コンテスト作品展



令和5年度広島県緑化ポスター
原画コンクール入賞作品展